

## 第4次柏市生涯学習推進計画 (令和5年度進捗状況・主な事業)

第4次柏市生涯学習推進計画は、外部の有識者を含む附属機関に、計画の進捗を報告するとともに、意見を聞きながら、計画的かつ効果的に推進を図っていきます。

進捗管理及び評価については、主な事業について毎年度進捗確認を行い、中間評価では全ての事業についての進捗確認の結果から、計画への位置づけ変更や新たな事業の位置づけを含む検討を行います。

最終年度には各事業の指標達成度及び本計画の目指す方向性の観点から総合的に評価し、次期計画につなぎます。

各事業の総合評価につきましては、3段階で示しています。

総合評価	達成度
◎	かなり達成できた(80~100%)
○	ある程度達成できた／ あまり達成できなかった(50~79%)
△	達成できなかった(0~49%)

### ステップごとの総合評価の分布

「はじめるきっかけ」を支援

◎	2(事業)	○	2(事業)	△	0(事業)
---	-------	---	-------	---	-------

「もっと知りたい、つながりたい」を支援

◎	2(事業)	○	7(事業)	△	0(事業)
---	-------	---	-------	---	-------

「ひろく伝えたい」を支援

◎	2(事業)	○	2(事業)	△	0(事業)
---	-------	---	-------	---	-------

情報提供による学びの支援

◎	0(事業)	○	2(事業)	△	1(事業)
---	-------	---	-------	---	-------

<b>計</b>					
◎	6(事業)	○	13(事業)	△	1(事業)

(20事業中)

1 「はじめるきっかけ」を支援

**A あらゆる世代が参加できる様々な学びの提供**

**B 障害の有無，言語や時間・経済的制約に関わらず，共に学ぶ環境の充実**

事業名	担当課	実現へのアプローチ (計画への位置付け)
・ 障害理解推進事業	障害福祉課	A,B
・ かしわフレイル予防ポイント	福祉政策課	A
・ 学校支援ボランティア	学校教育課	A
・ 夏ボラのススメ	社会福祉協議会	A,B,F

2 「もっと知りたい，つながりたい」を支援

**C 団体同士・学ぶ人同士の交流**

**D 大学や民間事業者との連携**

**E より深い学びへの発展**

・ 市民活動講座	市民活動支援課	E
・ 障害者活動センター運営事業	障害福祉課	C
・ 福祉喫茶コーナーの運営	障害福祉課	C
・ ママパパサロン	地域保健課	C
・ 地域子育て支援拠点事業	子育て支援課	C
・ 放課後子ども教室	生涯学習課	D,E,F,G
・ 分館活用事業	図書館	C,E
・ 地域アーカイブ事業	図書館	C
・ 地域学校協働活動	学校教育課	C,D,E

3 「ひろく伝えたい」を支援

**F 人材の育成**

**G コミュニティの育成**

**H 行政機関の連携**

・ 地域活動支援補助金	市民活動支援課	G
・ 地域づくり事業	中央公民館	F,G
・ 地域学校協働活動推進員の養成	学校教育課	F
・ 地域いきいきセンター	社会福祉協議会	A,C,G

4 情報提供による学びの支援

・ 子育て支援情報提供事業	こども政策課	情報提供
・ 生涯学習情報提供システム	生涯学習課	情報提供
・ ライフスタイルに合わせた学習コンテンツの提供	生涯学習課	情報提供

## 第4次柏市生涯学習推進計画(令和5年度進捗状況) 主な事業

番号	事業名	担当課
①-1	<a href="#">障害理解推進事業</a>	障害福祉課
①-2	<a href="#">かしわフレイル予防ポイント</a>	地域包括支援課
①-3	<a href="#">学校支援ボランティア</a>	学校教育課
①-4	<a href="#">夏ボラのスズメ</a>	社会福祉協議会
②-1	<a href="#">市民活動講座</a>	市民活動支援課
②-2	<a href="#">障害者活動センター運営事業</a>	障害福祉課
②-3	<a href="#">福祉喫茶コーナーの運営事業</a>	障害福祉課
②-4	<a href="#">ママパパサロン</a>	地域保健課
②-5	<a href="#">地域子育て支援拠点事業</a>	子育て支援課
②-6	<a href="#">放課後子ども教室</a>	生涯学習課
②-7	<a href="#">分館活用事業</a>	図書館
②-8	<a href="#">地域アーカイブ事業</a>	図書館
②-9	<a href="#">地域学校協働活動</a>	学校教育課
③-1	<a href="#">地域活動支援補助金</a>	市民活動支援課
③-2	<a href="#">地域づくり事業</a>	中央公民館
③-3	<a href="#">地域学校協働活動推進員の養成</a>	学校教育課
③-4	<a href="#">地域いきいきセンター</a>	社会福祉協議会
④-1	<a href="#">子育て支援情報提供事業</a>	こども政策課
④-2	<a href="#">生涯学習情報提供システム</a>	生涯学習課
④-3	<a href="#">ライフスタイルに合わせた学習コンテンツの提供</a>	生涯学習課

事業名	障害理解推進事業		担当課	障害福祉課	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の有無にとらわれず誰でも参加できる場を提供し、障害理解を育む活動に取り組む。</li> <li>・障害理解・啓発イベントの実施や、障害のある人が各種講座等に安心して参加できるように、手話通訳者の派遣やヒアリンググループの貸出などを行うもの。</li> </ul>				
計画への位置付け	A・B	主な事業の位置付け	「はじめるきっかけ」を支援		
「はじめるきっかけ」への効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の有無に関わらず参加できる場を提供することで、差別の解消を図り障害理解を深めるきっかけになる</li> <li>・「障害」への理解促進・意識啓発を図ることで、「共生」の意識づくりのきっかけになる</li> </ul>				
連携・関連事業	ボランティア養成講座、読書バリアフリー法関連事業、障がい者スポーツ推進連絡会事業、障害者活動センター運営事業、福祉喫茶コーナーの運営事業、生涯学習まちづくり出前講座				
R5年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者週間にあわせて、障害者活動センターで活動する団体（当事者団体・ボランティア団体）と協働して各種イベントを実施。</li> <li>・手話通訳者派遣やヒアリンググループ貸出は継続して行った。</li> </ul>				
R4年度からの変更	有り	理由・効果	団体と協働してイベントを実施することで、当事者との交流機会が増え、障害理解を深める場を提供できた。		
進捗状況 (数値が適さない場合は説明も可)	指標		基準	目標(R7年度)	実績(R5年度)
	障害者理解イベントの開催件数		10件	25件	13件
	手話通訳者・要約筆記者派遣件数(延べ)		612件	770件	719件
総合評価	○	評価の理由	団体と協働してイベントを実施することができたが、イベント実施が障害者週間に限られてしまった。団体が主体的に、1年を通じてイベントが実施されるような体制の構築が必要。		
連携の具体的取組	障害者活動センター運営事業、福祉喫茶コーナーの運営事業については、イベント実施にあわせて、それぞれ関連団体と協働しながら理解啓発に努めた。				
R3～5年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者週間にあわせて、障害者活動センターで活動する団体（当事者団体・ボランティア団体）や障害者団体、パラアスリート等と協働して各種イベントを実施。</li> <li>・手話通訳者派遣やヒアリンググループ貸出は継続して行った。</li> </ul>				
R3年度以降の変更	有り	理由・効果	業務効率化と効果最大化のバランスを勘案し、イベントの実施形態を年度ごとに変更している。		
計画への位置付け変更の必要性	無し	具体的内容	—		

事業名	かしわフレイル予防ポイント	担当課	地域包括支援課	
事業概要	市が指定する健康づくりやボランティア活動に参加することで、本制度専用の電子マネーWAONカードにWAON加盟店で利用できるポイントが貯まる。			
計画への位置付け	A	主な事業の位置付け	「はじめるきっかけ」を支援	
「はじめるきっかけ」への効果	ポイントを貯めることをきっかけとして、健康づくりやボランティア活動により多くの市民が参加する効果が期待される。			
連携・関連事業	学校支援ボランティア、地域学校協働活動、放課後子ども教室、地域いきいきセンター、市民活動講座			
R5年度の取組	フレイル予防活動を行う市民の増加に対応するため、全近隣センターでのポイント付与端末の貸出を開始した。ポイントを付与しやすい環境を整備することで、更なる参加希望者の増加を図った。啓発活動においても、市内大型ショッピングセンターでイベントを実施するなど、制度の周知に努めた。			
R4年度からの変更	無し	理由・効果	ポイント付与対象活動数と社会参加に取り組む高齢者の割合が増加した。	
進捗状況 (数値が適さない場合は説明も可)	<b>指標</b>	<b>基準</b>	<b>目標(R7年度)</b>	<b>実績(R5年度)</b>
	かしわフレイルポイントカード 発行枚数	2,044枚	10,000枚	24,166枚
	対象事業数	150	250	774
総合評価	◎	評価の理由	指標である「発行枚数」と「対象事業数」が、いずれも目標値を大きく上回る結果となっているため。	
連携の具体的取組	—			
R3～5年度の取組	活動する市民の増加に対応するため、ポイント付与端末を116台追加したり、全近隣センターでのポイント付与端末の貸出を開始したりと、ポイントを付与しやすい環境を整備することで更なる参加希望者の増加を図った。また、啓発活動においても、市内大型ショッピングセンターでイベントを実施するなど、制度の周知に努めた。			
R3年度以降の変更	有り	理由・効果	活動する市民の増加に対応するため、ポイント付与端末を116台追加し、ポイントを付与しやすい環境を整備することで更なる参加希望者の増加を図った。啓発活動においても、市内大型ショッピングセンターでイベントを実施するなど、制度の周知に努めた。	
計画への位置付け変更の必要性	無し	具体的内容	—	

事業名	学校支援ボランティア		担当課	学校教育課	
事業概要	小中学校において、地域ボランティアが参画する様々な支援活動。				
計画への位置付け	A	主な事業の位置付け	「はじめるきっかけ」を支援		
「はじめるきっかけ」への効果	できることをできるときにできる人が学校支援ボランティアを始めることにより、学校への支援につながり、自身の生きがいとなる				
連携・関連事業	かしわフレイル予防ポイント、地域学校協働活動、地域学校協働活動推進員の養成				
R5年度の取組	感染症の影響で中止・延期されていた学校支援活動が徐々に復活してきている他、学校運営協議会から新たに生まれた学校支援等もあり、「地域とともにある学校」が徐々に構築されてきている。				
R4年度からの変更	有り	理由・効果	「支援を受けた学校数」から、「日本語支援ボランティア」を削除（指導課が派遣している有償ボランティアであるため）		
進捗状況 (数値が適さない場合は説明も可)	指標		基準	目標(R7年度)	実績(R5年度)
	支援を受けた学校数		53校	63校	45校
総合評価	○	評価の理由	数値算出基準の変更により、支援を受けた学校数は減少となったが（例年と同基準の場合は58校）、ボランティア登録数・述べ活動人数は増加しているため。		
連携の具体的取組	地域ボランティアとの連携調整、登下校に関する対応、学校行事等の準備・運営、授業準備・援助等が具体的な地域学校協働活動として多く挙げられた。				
R3～5年度の取組	コロナ禍の影響で活動を制限される時期もあったが、年々少しずつ制限が解除され、各学校ごとに実施できる支援活動を行った。				
R3年度以降の変更	無し	理由・効果	—		
計画への位置付け変更の必要性	無し	具体的内容	—		

事業名	夏ボラのススメ	担当課	社会福祉協議会	
事業概要	小～高校生向けボランティア活動情報誌。時間のある夏休みに特化したボランティア体験。			
計画への位置付け	A・B・F	主な事業の位置付け	「はじめるきっかけ」を支援	
「はじめるきっかけ」への効果	ボランティア体験を通じて、福祉分野に対する知識と理解を深めることができる。			
連携・関連事業	地域いきいきセンター			
R5年度の取組	体験希望者の申し込みフォームをインターネット上で作成した。			
R4年度からの変更	有り	理由・効果	体験希望者の煩雑な手続きを怪訝することができた。	
進捗状況 (数値が適さない場合は説明も可)	指標	基準	目標(R7年度)	実績(R5年度)
	体験者数	600人	700人	753
総合評価	◎	評価の理由	昨年度の543人から大幅に増加し、目標を達成することができた。	
連携の具体的取組	冊子の周知、配布			
R3～5年度の取組	小～高校生向けボランティア活動情報誌。時間のある夏休みに特化したボランティア体験。			
R3年度以降の変更	有り	理由・効果	手に取りやすく、参加してみようと思わせる冊子を目指し、受付方法、レイアウト、掲載内容などを毎年度見直しを行った。	
計画への位置付け変更の必要性	無し	具体的内容	—	

事業名	市民活動講座		担当課	市民活動支援課	
事業概要	外部講師等による市民活動のためのスキルアップ講座				
計画への位置付け	E	主な事業の位置付け	「もっと知りたい、つながりたい」を支援		
「もっと知りたい、つながりたい」への効果	講座への参加を通して、市民活動団体の運営基盤の強化や団体同士の交流につながる。				
連携・関連事業	かしわフレイル予防ポイント、地域活動支援補助金				
R5年度の取組	R5年度は市民活動講座を5回開催。ボランティア受け入れ、ICT、助成金申請、相手に伝える広報・チラシ作り、まちづくり関連（柏の葉エリアのまちづくりと市民活動）をテーマに講座を開催。				
R4年度からの変更	無し	理由・効果	年度ごとで開催回数に多少変動があるが、趣旨・目的は変更なく継続的に実施することで、団体の活動基盤強化に努める。		
進捗状況 (数値が適さない場合は説明も可)	指標	基準	目標 (R7年度)	実績 (R5年度)	
	補助団体数	12団体	12団体	48団体	
	参加人数	100人	150人	62名	
総合評価	○	評価の理由	前年度同様、実習的な要素を重視した講座を開催した。結果、基準まで届かなかったが、各講座とも参加者からは満足度の高い感想が寄せられた。まちづくり関連講座は柏の葉地域における先進的・先端的なまちづくりや市民活動の経緯や特徴を学ぶ機会とし、テーマに関心を持つ市民にも参加していただいた。		
連携の具体的取組	【かしわフレイル予防ポイント】現在、検討中 【地域活動支援補助金】市民活動講座は主にNPO活動団体（私縁）の活動基盤強化を目的に実施しているが、町会活動（地縁）に共通する内容もあり、参加募集の際は地縁団体に対しても周知を行っている。				
R3～5年度の取組	講座の趣旨・目的のもと、実習的な要素を重視したものを実施。団体の抱える課題の解決につながるよう、年度ごとニーズに沿った内容を企画。				
R3年度以降の変更	無し	理由・効果	—		
計画への位置付け変更の必要性	無し	具体的内容	—		

事業名	障害者活動センター運営事業		担当課	障害福祉課	
事業概要	教育福祉会館リニューアルに伴い、新たに設置した障害者等の社会参加及び福祉の向上を目的として、障害当事者や家族、支援者等の活動の拠点となる場				
計画への位置付け	C	主な事業の位置付け	「もっと知りたい、つながりたい」を支援		
「もっと知りたい、つながりたい」への効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害当事者や支援者等が活動を通して、当事者間の交流や障害理解を深める</li> <li>・障害者等が活動センターにおけるイベント等に参加することで、障害理解や社会参加につながる</li> </ul>				
連携・関連事業	障害理解推進事業、交流型講演会				
R5年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規登録団体はなし</li> <li>・団体間の情報交換や交流を目的として、団体ミーティングを開始</li> <li>・昨年度に引き続き、障害者週間における理解啓発イベントにおいて、登録団体が協働してイベントを実施</li> </ul>				
R4年度からの変更	有り	理由・効果	団体間の交流が希薄だったことから、登録団体が一堂に会する場を設定。団体からも好評であり、今後団体の協働が期待される。		
進捗状況 (数値が適さない場合は説明も可)	指標		基準	目標 (R7年度)	実績 (R5年度)
	センターの稼働率		—	50%	46.9%
	センターでのイベント実施数		—	24	13
総合評価	○	評価の理由	稼働率が6割近くなる月もあるなど、一定の認知度は得られたと思われる一方、センターでのイベント数はまた多くなかず、単なる貸し部屋ではなく、障害者の居場所となるような仕掛けづくりが十分で無かったため。		
連携の具体的取組	障害理解推進事業で実施した障害理解イベントにおいて、センターを会場として、登録団体が協働してイベントを実施した。				
R3～5年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間予約の実施等による利便性の確保、センターの認知度向上等を図り、稼働率向上に努めた。</li> <li>・登録団体が一堂に会する団体ミーティングを実施することで団体間の交流を図った。</li> </ul>				
R3年度以降の変更	有り	理由・効果	一定の稼働率が見込めるようになったことから、単なる貸し部屋とならないよう、団体間の交流を図るような場を設定し、障害者の居場所となるような仕掛けづくりを進めた。		
計画への位置付け変更の必要性	無し	具体的内容	—		

事業名	福祉喫茶コーナーの運営事業		担当課	障害福祉課	
事業概要	障害者雇用や就労体験，障害理解の推進を図る場となるよう，福祉喫茶の管理運営を行う				
計画への位置付け	C	主な事業の位置付け	「もっと知りたい，つながりたい」を支援		
「もっと知りたい，つながりたい」への効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・喫茶コーナーで働く障害者が就労体験を通して，社会参加につながる</li> <li>・喫茶コーナーを利用する方が従業員とのふれあいを通して，障害理解につながる</li> </ul>				
連携・関連事業	障害理解推進事業				
R5年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者の就労の場として，年間約680人の障害者が利用。</li> <li>・ラコルタ柏フェスティバルへの出店を始め，ラコルタ柏で実施するイベントへの協力等を通じて，イベント参加者への周知を行った。</li> </ul>				
R4年度からの変更	無し	理由・効果	—		
進捗状況 (数値が適さない場合は説明も可)	指標	基準	目標 (R7年度)	実績 (R5年度)	
	就労した障害者の数 (延べ)	—	480人	678人	
	喫茶利用者数 (年間)	—	20,000人	19,189人	
総合評価	○	評価の理由	新型コロナウイルス5類移行に伴い，就労する障害者数は増加したものの，喫茶利用者が思うように伸びなかった。		
連携の具体的取組	障害理解推進事業においては，調理体験等のイベントを通じて就労する障害者と来館者との交流を図り，障害理解推進を図った。				
R3～5年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者の就労の場として，多くの障害者が利用</li> <li>・ラコルタ柏フェスティバルへの出店を始め，ラコルタ柏で実施するイベントへの協力等を通じて，イベント参加者への周知を行った。</li> </ul>				
R3年度以降の変更	有り	理由・効果	利用者数の増加を目指し，認知度向上のために各種イベントへの協力を行った。		
計画への位置付け変更の必要性	無し	具体的内容	—		

事業名	ママパパサロン		担当課	地域保健課
事業概要	産前産後サポート事業（デイサービス型）。妊娠期に必要な知識や健康づくりの啓発及び地域での子育ての仲間づくりを行う。			
計画への位置付け	C	主な事業の位置付け	「もっと知りたい、つながりたい」を支援	
「もっと知りたい、つながりたい」への効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠期から、両親で子育て等の知識を得る機会となり、不安の解消や更なる学習意欲、両親での主体的な育児の実施につながる。</li> <li>・地域における子育て家庭の交流の機会となり、孤立予防、育児の仲間づくりにより安心につながる。</li> </ul>			
連携・関連事業	地域子育て支援拠点事業			
R5年度の取組	初産婦とそのパートナーを対象にオンライン形式で実施。R4年度より回数を増やし年6回開催した。参加のしやすさを考慮し、対象を妊娠24週以降から20週以降に拡大した。内容は、助産師、栄養士、歯科衛生士の講話と、ビデオ鑑賞、先輩ママパパへの質問、柏市の子育て支援事業や母子保健事業の紹介を実施した。			
R4年度からの変更	無し	理由・効果	—	
進捗状況 (数値が適さない場合は説明も可)	指 標	基準	目標 (R7年度)	実績 (R5年度)
	参加人数	288人	480人	180
	知り合いになれた割合 (アンケート)	20%	25%	オンライン形式のため 実施なし
総合評価	○	評価の理由	オンライン実施のため、参加者同士の交流の機会が難しかった。そのため、子育て支援拠点を利用している先輩ママパパの中継を取り入れ、地域の資源の活用に繋がる内容を取り入れた。	
連携の具体的取組	—			
R3～5年度の取組	コロナ禍は個別形式で実施し、R4からはオンラインで開催。オンラインのメリットを活かし、子育て支援拠点と連携したプログラムを取り入れた。			
R3年度以降の変更	有り	理由・効果	新型コロナウイルス感染症の感染拡大下でも、初産婦とそのパートナーが妊娠出産について学ぶ機会を設けるため。	
計画への位置付け変更の必要性	無し	具体的内容	—	

事業名	地域子育て支援拠点事業		担当課	子育て支援課
事業概要	地域ぐるみの子育て支援。育児講座や子育て等に関する相談、子育て親子の交流及び子育て関連情報提供の場			
計画への位置付け	C	主な事業の位置付け	「もっと知りたい、つながりたい」を支援	
「もっと知りたい、つながりたい」への効果	子育ての当事者である乳幼児の保護者同士が支え合い、子ども同士も育ち合う関係をつくることができる。			
連携・関連事業	みんなの子育て広場、ママパパサロン			
R5年度の取組	5月の新型コロナウイルス5類移行に伴い、段階的に予約制から自由来館制へ移行。子育て中の親子の交流等の場として機能した。また、青少年センターの閉鎖に伴い、柏たなか駅前公園内に地域子育て支援施設設置し、「はぐはぐひろば若柴（現：柏たなか）」を継続。			
R4年度からの変更	有り	理由・効果	自由来館制へ移行。はぐはぐひろば若柴が移転、名称を変えて実施。	
進捗状況 (数値が適さない場合は説明も可)	指 標	基 準	目標 (R7年度)	実績 (R5年度)
	はぐはぐひろば利用者数	29,616人	31,896人	38,312人
総合評価	◎	評価の理由	令和5年度に自由来館にしたことで、コロナ前を超える利用があった。	
連携の具体的取組	ママパパサロン事業と連携し、オンラインにてはぐはぐひろばの様子の見学・利用者の先輩ママさんへの質問などを実施。			
R3～5年度の取組	コロナ禍は、施設内の消毒を適宜実施するとともに、できるだけ多くの方が利用できるよう、イベントの回数を増やすなど工夫し、制限がなくなってからは、親同士の交流イベントや調理を伴うイベントを実施するなど、ニーズに沿った育児講座等の実施を通して交流の場の提供を行うことができた。			
R3年度以降の変更	有り	理由・効果	令和5年度に自由来館制に変更。	
計画への位置付け変更の必要性	無し	具体的内容	—	

事業名	放課後子ども教室		担当課	生涯学習課	
事業概要	地域ボランティア等の参画による小学校の余裕教室を活用した放課後の学習支援等を行う他、夏休み中は学校や企業等との連携による体験講座を実施				
計画への位置付け	D・E・F・G	主な事業の位置付け	「もっと知りたい、つながりたい」を支援		
「もっと知りたい、つながりたい」への効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民や地域団体等が小学生の放課後活動の支援に継続的に関わることで学校との連携につながる</li> <li>・学習支援等に参加するボランティアは、活動を通して子どもとの関わり方に対する興味が広がる</li> </ul>				
連携・関連事業	地域学校協働活動、青少年教育事業、地域アーカイブ事業、かしわフレイル予防ポイント				
R5年度の取組	補充学習「ステップアップ学習会」に加え、体験活動「夏休み子ども教室」を実施した。また、地域との関わりの中で幅広い体験や経験ができ、児童の居場所となる活動を拡充するため、体験型の事業を夏休みに2校、平日に2校で実施した。				
R4年度からの変更	有り	理由・効果	地域との関わりの中で子どもの安全安心な放課後の居場所を実現するため、体験型の放課後子ども教室を実施した。		
進捗状況 (数値が適さない場合は説明も可)	指 標		基 準	目 標 (R7年度)	実 績 (R5年度)
	参加児童数 (延べ)		45,000人	56,000人	37,510人
	参加ボランティア数 (延べ)		8,000人	10,000人	7,224人
総合評価	○	評価の理由	ステップアップ学習会の参加者数は横ばいであるものの、体験型の放課後子ども教室において実施校を増やし、参加者数が増加している。 今後は、補充学習だけでなく、子どもが自由に過ごすことのできる居場所の拡充に向けて事業を展開していく。		
連携の具体的取組	—				
R3～5年度の取組	子ども達の学ぶ意欲と学習習慣の定着を図る補充学習に加え、地域との関わりの中で幅広い体験活動を行いながら、子どもの居場所となる活動を実施した。				
R3年度以降の変更	有り	理由・効果	放課後子ども教室のあり方が、地域住民の参画を得て、放課後に全ての児童を対象として、学習だけでなく体験・交流活動などを行い、安心安全で自分らしく過ごせる放課後の居場所づくりにシフトしている		
計画への位置付け変更の必要性	無し	具体的内容	—		

事業名	分館活用事業		担当課	図書館
事業概要	図書館分館を地域の情報拠点・交流の場として活用する。			
計画への位置付け	C・E	主な事業の位置付け	「もっと知りたい、つながりたい」を支援	
「もっと知りたい、つながりたい」への効果	人と人がつながることで、新たな価値が生まれたり、新たな創造活動が期待される。			
連携・関連事業	交流型講演会、地域いきいきセンター、地域づくり事業			
R5年度の取組	地域情報コーナーがある既存館の更新だけでなく、豊四季台分館で「柏競馬場」、本館で「音楽の街かしわ」をテーマに新設した。			
R4年度からの変更	無し	理由・効果	地域の再発見や地域住民の交流、地域への愛着などの醸成につながることが期待される	
進捗状況 (数値が適さない場合は説明も可)	指標	基準	目標 (R7年度)	実績 (R5年度)
	対象とする分館数(延べ)	—	10館	5館
総合評価	○	評価の理由	地域情報コーナーを2か所新設したことで、地域住民や団体との協働・連携を進めるための下地作りができた。	
連携の具体的取組	地域情報コーナーがある分館では、地域づくり事業と連携して、地域住民や団体との協働・連携を進めている。なかでも高柳地域の「かるたプロジェクト」では、図書館もかかわることで、「風早南部かるた」を作成することができた。			
R3～5年度の取組	地域情報コーナーを、令和3年度は増尾分館・永楽台分館に設置。令和4年度は高柳分館を含めた既存館の更新に注力し、令和5年度は豊四季台分館・本館に設置した。			
R3年度以降の変更	無し	理由・効果	地域の再発見や地域住民の交流、地域への愛着などの醸成は、時間をかけて行う必要があり、継続して取り組んでいく。	
計画への位置付け変更の必要性	無し	具体的内容	地域情報コーナーを通じて図書館分館が地域の情報拠点・交流の場となるよう、地域住民や団体との協働・連携に継続して取り組んでいく。	

事業名	地域アーカイブ事業		担当課	図書館	
事業概要	柏市を創ってきた近現代の活動を記録した地域資料や、市内でのみ流通する発行物など、いま収集しなければ失われてしまう資料等を収集し、整理・保存していく。				
計画への位置付け	C	主な事業の位置付け	「もっと知りたい、つながりたい」を支援		
「もっと知りたい、つながりたい」への効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世代交代等で失われてしまう地域資料や情報等を地域で共有していくことで、地域への愛着が生まれることが期待される。</li> <li>・個人の持つ知識や体験が事業活動を通じて共有されることで、更なる学びに繋がることを期待される。</li> </ul>				
連携・関連事業	交流型講演会、放課後子ども教室、地域づくり事業				
R5年度の取組	地域情報コーナーがある分館（永楽台・増尾・高柳）の地域住民や団体だけでなく、学校への提供を前提としたデジタル教材の作成において市民団体と連携を深めた。				
R4年度からの変更	無し	理由・効果	地域の再発見や地域住民の交流、地域への愛着などの醸成につながることが期待される		
進捗状況 (数値が適さない場合は説明も可)	指 標	基 準	目 標 (R7年度)	実 績 (R5年度)	
	活動に関わった人数(延べ)	—	100人	73人	
総合評価	○	評価の理由	昨年度に続いて、地域住民や団体との協働・連携を進めることができた。		
連携の具体的取組	地域情報コーナーがある分館では、地域づくり事業と連携して、地域住民や団体との協働・連携を進めている。なかでも高柳地域の「かるたプロジェクト」では、図書館もかかわることで、「風早南部かるた」を作成することができた。				
R3～5年度の取組	地域情報コーナーがある高柳地域の「かるたプロジェクト」や増尾地域の「民話の里づくりプロジェクト」、永楽台地域の「ふるさと協議会」、学校への提供を前提としたデジタル教材の作成において「美しい手賀沼を愛する市民の連合会（美手連）」などと連携を深め、地域資料の公開に取り組んできた。				
R3年度以降の変更	無し	理由・効果	地域の再発見や地域住民の交流、地域への愛着などの醸成は、時間をかけて行う必要があり、継続して取り組んでいく。		
計画への位置付け変更の必要性	無し	具体的内容	地域住民や団体との協働・連携に継続して取り組んでいき、地域情報コーナーを通じて貴重な地域資料や情報等を地域で共有していく。		

事業名	地域学校協働活動		担当課	学校教育課	
事業概要	幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動				
計画への位置付け	C・D・E	主な事業の位置付け	「もっと知りたい、つながりたい」を支援		
「もっと知りたい、つながりたい」への効果	学校で子供たちの成長のために、地域が学校に関わることにより、地域が学校の様子を知り、学校での活動を通じて、活動する人同士がつながる				
連携・関連事業	放課後子ども教室、かしわフレイル予防ポイント、こずっち会議、みんなの子育て広場、学校支援ボランティア、地域学校協働活動推進員の養成				
R5年度の取組	各学校運営協議会委員にて協議し、①社会に開かれた教育課程の実現、②教職員の業務負担軽減を目的に、各学校・協議会にとって優先度が高いと判断された地域学校協働活動を企画・実施した。				
R4年度からの変更	無し	理由・効果	—		
進捗状況 (数値が適さない場合は説明も可)	指 標	基 準	目 標 (R7年度)	実 績 (R5年度)	
	学校運営協議会での話し合いから地域学校協働活動につながった学校数	0校	63校	57校	
総合評価	◎	評価の理由	①社会に開かれた教育課程の実現に「つながった・ある程度はつながった」と答えた学校が87%、②教職員の業務負担軽減「つながった・ある程度はつながった」と答えた学校が62%となったため		
連携の具体的取組	地域ボランティアとの連携調整、登下校に関する対応、学校行事等の準備・運営、授業準備・援助等が具体的な地域学校協働活動として多く挙げられた。				
R3～5年度の取組	コロナ禍により地域とのつながりが途切れてしまった時期もあったが、それらを再構築していき、従来からある地域学校協働活動に加え、各校できることに取り組んだ。				
R3年度以降の変更	無し	理由・効果	—		
計画への位置付け変更の必要性	無し	具体的内容	—		

事業名	地域活動支援補助金	担当課	市民活動支援課	
事業概要	地域活動や地域課題の解決を図ろうとする団体の支援			
計画への位置付け	G	主な事業の位置付け	「ひろく伝えたい」を支援	
「ひろく伝えたい」への効果	地域活動や地域課題の解決を図ろうとする団体を支援することで地域内のコミュニケーションが活性化し、よりよいコミュニティの醸成につながる。			
連携・関連事業	市民活動講座			
R5年度の取組	コロナ渦が落ち着き、少しずつ町会活動が活発化するなかで、非常時への備えについて考え始めた町会が現れ始めた。R4年度に応募事業分野に追加となったICTはそのニーズを満たすものであり、応募があった際は積極的に相談に応じ、採択に向けて手厚いサポートを行った。			
R4年度からの変更	無し	理由・効果	—	
進捗状況 (数値が適さない場合は説明も可)	指 標	基 準	目標 (R7年度)	実績 (R5年度)
	補助団体数	12団体	12団体	12団体
総合評価	◎	評価の理由	ICT単体の応募は5、他分野でもICTを絡めた事業となると半分以上が該当し、地域のニーズを汲み取れたことから。	
連携の具体的取組	—			
R3～5年度の取組	地域の現状やニーズを知るために当補助金を通じた町会活動の支援だけでなく応募団体との意見交換会を実施し、要望の多かったICTを対象事業に追加した。			
R3年度以降の変更	有り	理由・効果	応募分野にICTを追加。町会等活動の負担軽減策として多くのニーズを獲得	
計画への位置付け変更の必要性	無し	具体的内容	—	

事業名	地域づくり事業		担当課	中央公民館
事業概要	地域が抱える様々な課題を、専門的な視点から掘り下げ関心を高め、課題解決に役立てる。			
計画への位置付け	F・G	主な事業の位置付け	「ひろく伝えたい」を支援	
「ひろく伝えたい」への効果	地域が抱える様々な課題への取り組みの過程と成果をひろく伝えていくことで、取り組みに参加していない方々の今後の参加や、取り組みを行っていない地域へ取り組みの魅力をアピールする。			
連携・関連事業	地域アーカイブ事業、分館活用事業、地域いきいきセンター、地域学校協働活動推進員の養成			
R5年度の取組	風早南部地域：風早南部かるた			
R4年度からの変更	有り	理由・効果	酒井根地域：植えて育てて花いっぱいマイガーデン（フォローアップ）については、講座を経てふるさと協議会中心に自主活動へ移行する体制が整ったため、R5年度の取組みからは外れている。	
進捗状況 (数値が適さない場合は説明も可)	指標	基準	目標（R7年度）	実績（R5年度）
	取組を行っている地域 (延べ)	1地域	6地域	1地域
総合評価	○	評価の理由	地域における生涯学習を支援した講座により、地域活動への参画の繋がりを一定程度確認することができたため。	
連携の具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のメンバーで結成された風早南部かるたプロジェクトチームが箱かるたを作成し、地域の学校等に配布。</li> <li>・ふるさと協議会や地区社協主催でかるた取り大会を実施。</li> </ul>			
R3～5年度の取組	地域社会が抱える様々な課題に対応するため、より多くの地域住民が参加できる生涯学習活動を通じてコミュニティ育成や人材育成を図ることで、地域住民が主体となって、生涯学習活動の成果を地域課題解決へ繋げることを目指してきた。			
R3年度以降の変更	無し	理由・効果	地域づくり事業は、最終的に地域の方が主体となって活動できるまでの過程が、事業により大きく異なり、丁寧に、時間を掛ける対応も必要であることが、前年度までの取組の中で分かってきており、主に取り組んだ風早南部地域では、関係機関も多いので支援体制を整えることにも時間を要した。今後も、地域課題を汲み取ることや、地域課題解決への支援という公民館の取組についての周知に努め、各地域の事情に沿った支援を展開していきたいと考えている。	
計画への位置付け 変更の必要性	無し	具体的内容	—	

事業名	地域学校協働活動推進員の養成		担当課	学校教育課
事業概要	小中学校において、地域ボランティアが参画する様々な支援のまとめ役の育成。学校と地域をつなぐ役割を担う。今後、地域学校協働本部が立ち上がった際には、より広い活動を行う推進員が学校と地域の協働を支えていく。			
計画への位置付け	F	主な事業の位置付け	「ひろく伝えたい」を支援	
「ひろく伝えたい」への効果	地域と学校をつなぐ地域学校協働活動推進員を養成することにより、より多くの学校の情報が、より多くの地域の方へ届き、学校支援を始めるきっかけとなり、継続的に学校と地域の協働を支えることができる			
連携・関連事業	地域づくり事業、学校支援ボランティア、地域学校協働活動			
R5年度の取組	年2回の地域学校協働活動推進員養成講座を実施。推進員候補者に向け、推進員としての役割や協力依頼等を行った。			
R4年度からの変更	無し	理由・効果	—	
進捗状況 (数値が適さない場合は説明も可)	指 標	基 準	目標 (R7年度)	実績 (R5年度)
	推進員の委嘱数	—	26人	21人
総合評価	○	評価の理由	今年度より21名の地域学校協働活動推進員を配置。また、新たに15名が令和5年度の地域学校協働活動推進員養成講座を受講。	
連携の具体的取組	地域学校協働活動推進員を配置した学校においては、推進員が中心となり、地域ボランティアとの連携調整を図り、登下校に関する対応、学校行事等の準備・運営、授業準備・援助等の地域学校協働活動を行った。			
R3～5年度の取組	令和4年度より毎年、年2回の地域学校協働活動推進員養成講座を実施。推進員候補者に向け、推進員としての役割の説明や協力依頼、他協議会推進員との意見交換会等を行った。			
R3年度以降の変更	無し	理由・効果	—	
計画への位置付け変更の必要性	無し	具体的内容	—	

事業名	地域いきいきセンター	担当課	社会福祉協議会	
事業概要	地域づくり・子育て・障害者・高齢者支援等の充実を図るため、近隣センターを拠点として、身近な福祉の相談窓口を設置する。			
計画への位置付け	A・C・G	主な事業の位置付け	「ひろく伝えたい」を支援	
「ひろく伝えたい」への効果	複合的な生活課題の悩みについて、市民が気軽に相談に行くことができる場所が増える。			
連携・関連事業	分館活用事業，地域づくり事業，かしわフレイル予防ポイント，夏ボラのススメ			
R5年度の取組	関係機関及び地域との調整の上、10ヶ所目の窓口として新田原地域いきいきセンターを開設した。			
R4年度からの変更	無し	理由・効果	—	
進捗状況 (数値が適さない場合は説明も可)	指 標	基 準	目標 (R7年度)	実績 (R5年度)
	設置数	7	12	10
総合評価	◎	評価の理由	予定通りのペースで新規窓口を開所できた。身近な窓口で市民が気軽に相談できる場所が増えたため。	
連携の具体的取組	かしわフレイル予防ポイントや夏ボラ等の取り組みにおいて、身近な窓口として市民への周知や案内等を実施した。			
R3～5年度の取組	令和3年度5年度にかけて新富、増尾、新田原地域にいきいきセンターを開設し、身近な相談ができる場所が増えた。			
R3年度以降の変更	無し	理由・効果	—	
計画への位置付け変更の必要性	無し	具体的内容	—	

事業名	子育て支援情報提供事業		担当課	こども政策課
事業概要	子育てに関する制度やイベント、支援団体情報などを子育てサイトやLINE及びInstagramで発信			
計画への位置付け	情報提供	主な事業の位置付け	情報提供による学びの支援	
情報提供による学びの支援への効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・孤立化や、子育てに悩む保護者の不安や負担等の軽減。</li> <li>・イベント等を通じ地域間でつながりを持つことで生まれる子どもへの健全な育ち・成長。</li> </ul>			
連携・関連事業	生涯学習情報提供システム			
R5年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はぐはぐ柏については、サイトの利便性向上とともに、LINEやInstagramからも誘導し、サイトのアクセス数向上を図った。</li> <li>・LINEについては、令和5年4月に「はぐはぐ柏公式LINEアカウント」での配信を終了。「柏市公式LINE」内の「子育て・教育ジャンル」にて配信を開始した。令和6年3月31日時点で登録者数は6,776人。また、月齢・年齢別の子育て情報を配信する「年齢別セグメント配信」及びメニューから手続きや予約ができる「こどもの手続・予約」機能を追加し、市民サービスの向上を図った。</li> <li>・令和4年9月より「はぐはぐ柏Instagramアカウント」を開設、令和6年3月31日時点でのフォロワー数は2,269人。Instagramの特徴を活かし、柏市の子育て情報やその魅力について、写真や動画を中心とした視覚的な配信を行った。令和5年12月より、市民ライター「はぐはぐ柏Instagram公式アンバサダー」による当事者目線での子育て情報発信のトライアル運用を開始。</li> </ul>			
R4年度からの変更	有り	理由・効果	はぐはぐ柏公式LINEアカウントでの配信を終了し、柏市公式LINEアカウントへ移行。「子育て・教育」ジャンルにて配信を開始。	
進捗状況 (数値が適さない場合は説明も可)	指標	基準	目標 (R7年度)	実績 (R5年度)
	子育て情報サイト「はぐはぐ柏」PV数	1,633,294PV	2,200,000PV	1,813,893PV
	「はぐはぐ柏」LINE公式アカウント登録者数	3,802人	9,660人	6,776人
総合評価	○	評価の理由	はぐはぐ柏閲覧目標数の達成率が約82.4%となっており、達成はしていないものの、基準値に対しては約111%であったため。またLINEについては、令和5年度よりアカウントを移行しているため同一指標での評価は難しいが、アカウントの移行から約1年で登録者数が6,776人と、移行前の友達登録数7,875人の約86%となっている。さらに「はぐはぐ柏Instagram」では、市民ライターによる当事者目線での子育て情報の発信を開始するなど、新たな取り組みを行い、令和5年度のフォロワー数が前年度の約2倍(1,094→2,269人)の増加となったことから、評価は○とした。	
連携の具体的取組	—			
R3～5年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はぐはぐ柏の利便性向上及びSNSからのアクセス誘導。</li> <li>・LINEアカウントの統合。「年齢別セグメント配信」や「こどもの手続・予約」などの新機能を追加。</li> <li>・令和4年9月より「はぐはぐ柏Instagramアカウント」を開設。写真や動画を中心とした視覚的な配信を行った。また、令和5年12月より市民ライター「はぐはぐ柏Instagram公式アンバサダー」による当事者目線での子育て情報発信のトライアル運用を開始。</li> </ul>			
R3年度以降の変更	有り	理由・効果	令和2年度に実施したアンケートで、子育て情報をInstagramで得ているという回答が4割と最も多かったことから、子育てに特化したInstagramを新規開設した。	
計画への位置付け 変更の必要性	無し	具体的内容	—	

事業名	生涯学習情報提供システム		担当課	生涯学習課	
事業概要	柏市内（近隣市）の生涯学習に関する情報（講座・イベント、団体等）を探したり、掲載したりできるサイト。官民間わず情報を提供				
計画への位置付け	情報提供	主な事業の位置付け	情報提供による学びの支援		
情報提供による学びの支援への効果	多くの市民が閲覧しやすい情報を提供することで、生涯学習活動を活性化させ、コミュニティ形成の一助とする				
連携・関連事業	子育て支援情報提供事業				
R5年度の取組	生涯学習情報提供システムでは、生涯学習に関する団体・サークルや、生涯学習ボランティアの登録者が各自で活発に情報発信した。				
R4年度からの変更	無し	理由・効果	—		
進捗状況 (数値が適さない場合は説明も可)	指 標	基 準	目標（R7年度）	実績（R5年度）	
	閲覧数	90,000件	100,000件	78,404件	
	新規情報提供数	—	120件	160件	
総合評価	○	評価の理由	らんらんかしわでは活発に情報が提供されているが、閲覧数は基準値に届いていないため。		
連携の具体的取組	—				
R3～5年度の取組	例年、閲覧数が伸び悩んでいる。活動者に実際の活動状況が分かりやすい情報の提供を求めるとともに、広報かしわ等で生涯学習情報をより多くの方に届ける工夫が必要。				
R3年度以降の変更	無し	理由・効果	—		
計画への位置付け変更の必要性	無し	具体的内容	—		

事業名	ライフスタイルに合わせた学習コンテンツの提供	担当課	生涯学習課	
事業概要	公民館・近隣センター等における受講、自宅でのPC受講など、さまざまなツールを利用できる学習コンテンツの提供と情報提供を行うことにより、ライフスタイルに合わせた学習機会を拡充する。			
計画への位置付け	情報提供	主な事業の位置付け	情報提供による学びの支援	
情報提供による学びの支援への効果	ライフスタイルに合わせた多種多様な学習機会を提供することで、個々人の学習活動を支援し、自己実現を図れる環境を整える			
連携・関連事業	—			
R5年度の取組	コロナ禍を経て、生涯学習に関わる個々の事業や研修等にて、オンラインを利用した対面以外の学習機会が提供されており、生涯学習情報提供システム等の情報発信ツールで情報を提供した。			
R4年度からの変更	無し	理由・効果	—	
進捗状況 (数値が適さない場合は説明も可)	指 標	基 準	目標 (R7年度)	実績 (R5年度)
	提供数	—	1以上	0
総合評価	△	評価の理由	ライフスタイルに合わせた学習コンテンツの情報提供は行っていたが、生涯学習課が主導してコンテンツを提供することは達成できていないため。	
連携の具体的取組	—			
R3～5年度の取組	生涯学習に関わる個々の事業や研修等にて、オンラインを利用した対面以外の学習機会が提供されており、生涯学習情報提供システム等の情報発信ツールで情報を提供した。			
R3年度以降の変更	無し	理由・効果	—	
計画への位置付け変更の必要性	無し	具体的内容	—	